

看護実践報告発表会

2024年3月7日（木）17：30～ 看護実践報告発表会を開催しました。



今年も、日々の看護実践の中から、年間を通して特に心に残った症例をあげ、看護の振り返りをしてもらいました。その中から今回は、外来より3名、一般病棟より2名、地域包括ケア病棟看護師より3名、症例の発表会を行いました。

一部抜粋して、紹介致します・・・

～ 外来より ～

「プレパレーションを用いた小児看護」

ラダーⅢ

患児にとって医療行為は受け入れがたく、不安や恐怖を感じます。患児も治療に参加するという事で自己決定を尊重し、治療を受けるスタイルを自分で選んでもらった・・・このプレパレーションという方法を用いて、安全かつスムーズな治療が行えた。

「限られた時間の中で患者ニーズを満たした事例」

ラダーⅡ

外来看護の一つの特徴として、ポイントを押さえた迅速なアセスメントや看護、対応が求められる。その中で、多職種と連携を取ることで、患者ニーズに重点を置き受診後に安心して地域で過ごすことができた。

「関連性血管炎を持病に持つがん患者の温熱療法での関りを通しての学び」

ラダーⅢ

リスクを抱えながら、温熱療法を受ける患者さんに対し、スタッフで緊急時の行動を繰り返しシミュレーションしながら支援していった。その結果、安全に実施することができ、また患者さんから力強く、一生懸命生き抜く姿を学ぶ事ができた。



～ 一般病棟より ～

「終末期患者の自宅退院を目指すに当たって」 ラダーⅢ

終末期の患者さんがインフルエンザに罹患し、入院された。その後呼吸状態が悪化し酸素投与が必要になった。予期せぬ事からせん妄状態となり、身体抑制を余儀なくされ、更に興奮状態が続いていた。在宅への退院が困難となる中、精神的援助を行いながら地域を含めた多職種と連携をとり、自宅退院することができた。

「肺癌末期の患者に対する退院支援」 ラダーⅢ

このケースも終末期の患者さんで、腫瘍熱に伴いADLの低下をきたしてしまった。もともと明るい性格の方であったが、次第に人と話することも少なくなり、想いを表出する事がなくなってきた。何とか家族とも連絡を取りながら患者さんと信頼関係を築き、想いを聞き出すことができた。「何としても家に帰りたい」という言葉を聞くことができ、そこから、自宅に帰るための意欲が増し、リハビリも積極的に行い自宅へ退院することができた。



～ 地域ケア病棟より ～

「患者本人と家族の意思が相違したときの退院支援について」 ラダーⅠ

患者さんは自宅に帰りたい、家族は老々介護のため自宅は困難なため、施設入所を考えている。これらはよくあるケースであり、今後も課題である。

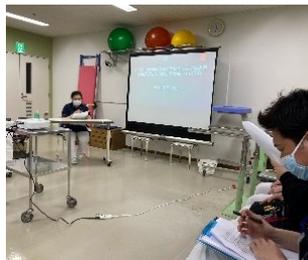
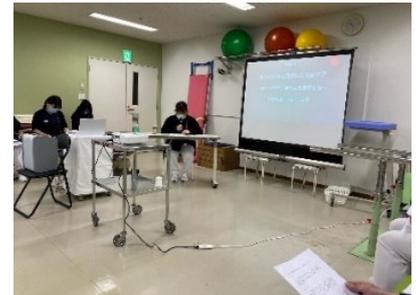
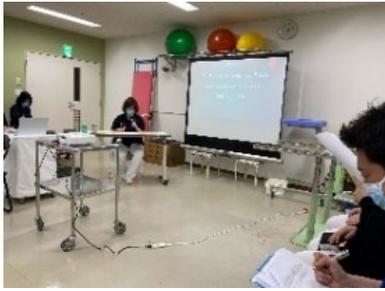
本人の意思を尊重し、介護サービスを取り入れながら、自宅でも生活できることを家族へ話し、患者さん・家族の想い、どちらも受け入れながら最終的には自宅での生活に戻ることができた。

「本人の意思を尊重した看護ケア～嗜好に合わせた食事方法～」 ラダーⅠ

誤嚥性肺炎の患者さん。元々胃がんの手術を施行し致死性不整脈による心肺停止、蘇生後廃用が進みリハビリを行っていた。経鼻から栄養剤を注入していたが、STや看護師による嚥下訓練を徹底し、経口摂取が可能となった。しかし病院食は口に合わず、摂取量が少なく、トロミ付きは避けられなかったため更に食事が進まなかった。アルコールが好きであったとの情報を得て、炭酸に使えるとろみ粉を使用しノンアルコールのお酒に混ぜ提供したところ、凄く喜ばれた。

「気管切開患者の喀痰に対するの対応策と家族との関りの重要性について」 ラダーⅡ

クモ膜下出血、気管切開後の患者さん。在宅で介護を行っている。喀痰が多く気管孔から痰が多量に噴き出すことが多く、自宅では首周りにタオルを巻き、それでも汚染が多いため頻回に寝衣の交換を行っていた。入院後も継続して同様な対応をしてほしいと家族の希望もあり、入院中も頻回にタオルや寝衣の交換を行っていた。患者さんは首周りの汚染も嫌がり、また寝衣交換も嫌がっておられた。チームで話し合い、何とか自宅でも患者さんの苦痛を取り除く方法はないかと考えた対策で解決できた。その対応策で現在も退院後自宅で継続してくれている。



看護実践発表会、皆さんお疲れ様でした。

皆さん心に残る看護ができて良かった人も、悔いが残る人もそれぞれです。私たちが楽しく仕事をするにより、患者さんにも安心して安全な看護ができると思います。そのためにも、心身ともにリフレッシュできる環境を整えていかなければなりませんね。

発表してくれた皆さんに、与倉看護部長より記念品の贈呈です。



今年も、名前入りボールペンを、発表者に贈呈されました。😊

